

END
POLIO
NOW

国際ロータリー第2770地区 元財団奨学生(学友)

ヴァイオリン 平澤 仁
チェロ 成田 七海
ピアノ 齋藤 晴美
ソプラノ 中津川祥子

ポリオ撲滅

カウントダウンチャリティーコンサート

第1部

子どもからおとなまで楽しめる名曲

アイネ・クライネ・ナハトムジーク
エリーゼのために
白鳥
ツィゴイネルワイゼン
秋を彩る日本の唱歌 ほか

第2部

永遠に親しまれる名曲をピアノ・トリオで

ヴィヴァルディ「四季」より
ベートーヴェン「大公」
チャイコフスキー「花のワルツ」



成田 七海



平澤 仁



齋藤 晴美



中津川 祥子

The
Rotary
Foundation 

Charity

2018年11月29日(木)

18:30 開演 (18:00 開場)

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 JR埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分

チケット 3,000円

主催

国際ロータリー第2770地区ガバナー 中川 高志 / 国際ロータリー第2770地区 / 財団部門ポリオプラス委員会

協賛

国際ロータリー第2770地区 公共イメージ部門

お問い合わせ

国際ロータリー第2770地区財団学友会

国際ロータリー第2770地区事務所 TEL 048-827-0022 / FAX 048-827-0011 / E-mail ri2770@ri2770.com

ポリオ撲滅カウントダウンチャリティーコンサート



ロータリークラブは1905年に米国シカゴで生まれました。ロータリークラブの集合体を国際ロータリーと呼んでいます。現在は世界中に35,000以上のクラブがあり、120万人以上の会員がおります。世界を変える行動人として、世界平和を実現するために人道的奉仕をしています。

国際ロータリーは、1985年にポリオの撲滅を提案し1億2千万ドルを寄付する宣言をしました。1988年には世界保健機構(WHO)、ユニセフ、アメリカ疾病対策センター(CDC)と国際ロータリーで、世界ポリオ撲滅推進イニシアティブ(GPEI)を発足し、ポリオ撲滅を推進しています。2007年にはビル&メリンダ・ゲイツ財団がGPEIに加わり撲滅を加速しています。

1988年には野生型ポリオウイルスによって推定35万人が身体麻痺を患っていましたが、2017年に報告されたポリオの症例数はわずか21件にまで減少しています。ポリオが発症している国はパキスタンとアフガニスタンの2カ国になり、ポリオの撲滅の実現に向けて、カウントダウンが近づいてくる状況になりました。しかし、ポリオを完全に撲滅するには更に大きな努力と支援が必要です。撲滅する日まで、世界の25億人の子供たちにワクチンを投与し続けなければなりません。今後ポリオ撲滅のカウントダウンに向けて更なるご支援の継続をお願いするために、ロータリー財団奨学金を受けて音楽を勉強して来た財団学友によるチャリティーコンサートを企画いたしました。今後も国際ロータリーのポリオ撲滅活動に対するご理解とご支援をお願い申し上げます。

出演者プロフィール



平澤 仁 (ヴァイオリン)

5歳よりヴァイオリンを始め、1981年東京芸術大学音楽学部に入學。1985年同大学院に進む。第54回日本音楽コンクールに入選。1986年より蓮田ロータリークラブの推薦を受け国際ロータリー財団奨学生として、ニューヨークの名門ジュリアード音楽院に留学。1988年同音楽院の修士課程を修了、帰国と同時に東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任し、その後二十余年に渡って定期演奏会、新国立劇場のオペラ、バレエ公演などの重責を果たした。現在はソロ活動に専念。在団中からメンデルスゾーン、チャイコフスキー、コルンゴールドなどのヴァイオリン協奏曲を東京フィルと共演している他、1991年より定期的にソリサイタルを開催し研鑽を積んでいる。室内楽の分野では各地の音楽祭でマルタ・アルゲリッチ、イヴリー・ギトリス、ポール・メイエら内外の著名アーティストとも共演している。これまでに、原田幸一郎、田中千香土、広瀬悦子、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫の各氏に、また室内楽をヤコブ・ラタイナー、サミュエル・ローズの各氏に師事。ソロCD「虚空はるか」(ナミレコードWWCC7380)は、各方面で高評価を得ている。今後も、これまでの経験を生かしオペラを中心としたオーケストラへの客演や歌手とのコラボレーションに加え、室内楽からポピュラーコンサートまで多彩な活動が期待されている。



成田 七海 (チェロ)

東京芸術大学音楽学部附属音楽高校を経て東京芸術大学卒業後、さいたま中央ロータリークラブの推薦を受け、国際ロータリー財団奨学生としてウィーンに留学。国内外のマスタークラスにて、堤剛、ヴォルフガング・ベッチャー、タマーシュ・ヴァルガ、フィリップ・ミュラー各氏の指導を受ける。これまでにチェロを羽川真介、河野文昭、上森祥平、藤森亮一、フランツ・バルトロメイ各氏に師事。室内楽を松原勝也、市坪俊彦、川崎和憲、花崎薫、山本裕康、東誠三、江口玲各氏に師事。2017年チョン・ミョンファン指揮 アジア・フィルハーモニー管弦楽団韓国ツアー参加。2018年ラ・フォル・ジュルネ エリアコンサート出演。日本を拠点にオーケストラや室内楽、レコーディングなどの活動を行う傍ら、東京芸術大学社会連携センターCOI拠点特任助手として、芸術と科学技術の融合によって次世代のインフラとなる豊かな文化的コンテンツの開発に携わっている。



齋藤 晴美 (ピアノ)

3歳よりピアノを始め。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。2008-2009年、蓮田ロータリークラブの推薦を受け、国際ロータリー財団奨学生として、イタリア、ミラノ音楽院に留学。ピアノソロ、ピアノ伴奏法を学ぶ。留学中、伴奏ピアニストとして、ミラノ市内や近郊の病院、福祉施設でのコンサートに多数出演。

2013年、イタリアの名ソプラノ、ティツィアーナ・ドゥカーティー氏のオペラアリアCD「メロドラマ」の伴奏ピアニストを務めた。第9回彩の国・埼玉ピアノコンクールF部門入賞。これまでに、ピアノを三村則子、奈良場恒美、アイラペティアン・タテーヴィチの各氏に、ピアノ伴奏法をルカ・ゴルラ氏に師事。現在、ソロのピアニストとして、また、声楽家、器楽奏者、合唱団の伴奏ピアニストとして、多数のコンサートに出演している。



中津川 祥子 (ソプラノ)

埼玉県立浦和第一女子高校卒業。お茶の水女子大学芸術表現行動学科音楽表現コース卒業、同大学院修士課程修了。同大学院にて博士号を取得(人文科学)。声楽を、林廣子、曾我淑人、Carla Vannini、Laura Maria Groppilに、音楽学を永原恵三、近藤謙の各氏に師事。2006年イタリア声楽コンクール ミラノ部門入選。2007年11月、初のソリサイタルを開催。浦和ロータリークラブの推薦を得て、2009年8月より国際親善奨学生(津田健三・仁美冠名奨学生)として、イタリア、ミラノ音楽院へ1年間留学。ミラノ周辺での老人ホームや病院への慰問コンサートにボランティアで出演。イタリア・ピアチェンツァでのLaura Maria Groppil氏によるマスタークラスに参加、ディプロマを取得。帰国後、大正期の日本におけるオペラを受容過程に関する研究に着手し、2017年度に博士論文「雑誌『オペラ評論』および『オペラ』にみるオペラを受容過程について」を提出。博士号を取得した。現在江戸川大学メディアコミュニケーション学科子どもコミュニケーション学部にて教鞭をとる。